
微笑み

風磨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

微笑み

【Nコード】

N5374I

【作者名】

風磨

【あらすじ】

僕が恋したのは「男」だ
最初はためらいはなかったが
段々とすれ違う思い。

男×男の恋

って感じにしたいな！！
見てくれたら嬉しいな

僕は今まで男に興味なかった。

と言っか、僕自体が男だから、興味が沸かなかった。

が、ある男を気になり始めた、そいつの名前は「芥川 風太」

成績は僕よりは悪い、運動系は普通。

ついでに、僕の名前は「大江 大貴」

ある日のこと・・・

大（学校は面倒だ。）

など思いながら登校した。

ドンッ

大「イってえ、、、。」

「ごめんな？大丈夫か？」

「ああ。僕こそ悪かったな。」

「俺、風太、お前は？」

「僕は、大貴。」

「よろしくな！大貴」

「えっ？あ・ああ／／」

なに照れてるんだ！僕

「大貴？顔赤いよ？」

ヤバイ／＼僕がおかしくなった!?

「風太・・・、用事思い出したからまた、あとで。」
「ん？うん！またな」

僕が・・・この僕が、男に照れるなんて。

ノーマルだと思ったのに・・・。。。

自分が恥ずかしい／＼

つーか僕今ぜってえ顔赤いし／＼

ああ！！もうー！！！！

と思いながら、教室に向かう僕・・・。

ガラララー---

ハヒソヒソ・大江だ、マジで来るなよ」

「ああーうっせな！！！」ガラーコン

しーん・・・机を思いきし蹴り飛ばした。

『こらああああ！！大江！あとで職員室に來い！！！！』

「うっせんだよ！！やってらんねえよ」

僕はそう言って教室を出た。

マジありえないんだよ！！

僕より頭悪いのにガタガタ言ってんな！このカス共が

「あれ？大貴？」

「ん？ああ、風太かあ」

「何？おサボリ？」

「まあな」

「元気ねえじゃん？どうした？」

「・・・。僕は皆に嫌われてる」

「嫌われてる？俺はお前が好きだけど／＼」

「と・友達としてだろ？つーか友達は風太だけで十分だな」

「俺は友達としてじゃない。恋の方でだっ」

「・・・／＼マジで言ってんの？／＼」

「もちろん、大貴は俺が嫌いか？」

「そんなことは・ナ・ないとお・思う／／／」

B L

「好きだよ？大貴」

「まだ、良いなんつて言っていない」

「じゃあ、俺のこと嫌いなのか？」

「わ・わかった！！ 僕も風太のこと好きかも／＼」

「よろしい」

僕たちは触れるだけのk i s sをした。

次の日――

「風太？」

「どうした??」

「呼んだだけ！」

「ん？ふーん？」

「ねえ？」

「なーに？」

「好きだよ？風太／＼」

「知ってるよ（笑）」

「なんだー知ってるんだー」

「急にどうしたの？甘えんぼさんになつて（笑）」

「ん、風太が好きだなんて思ってたただだよ！／＼」

「そんなこと??ふふ、可愛い、今夜食べても良い？」

「か・可愛いって／＼っか食べるって？」

「鈍感だな（笑）」

「??????」

「今夜になれば、わかるよ」

「うん？今日は風太の家に行くね？」

「それも知ってる。泊まるでしょ??」

「エスパーだ。泊まるよ?」

注意 大貴と風太のキャラが変わってます!あと、内容もグタグタになってます。by作者

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5374i/>

微笑み

2010年10月10日23時44分発行